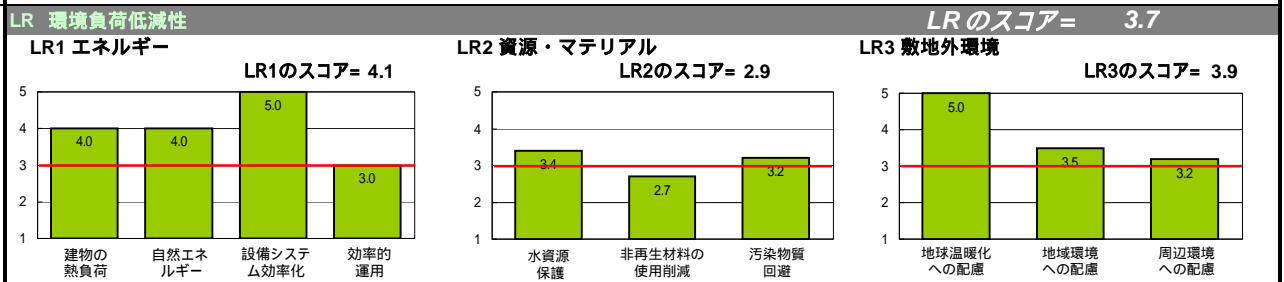
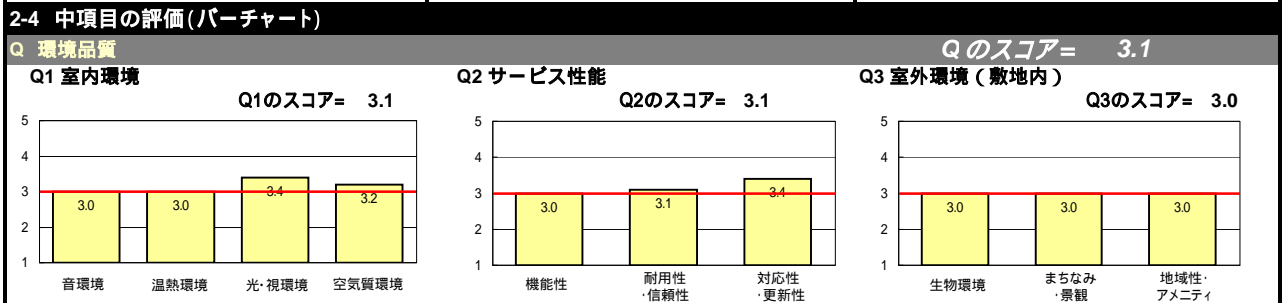
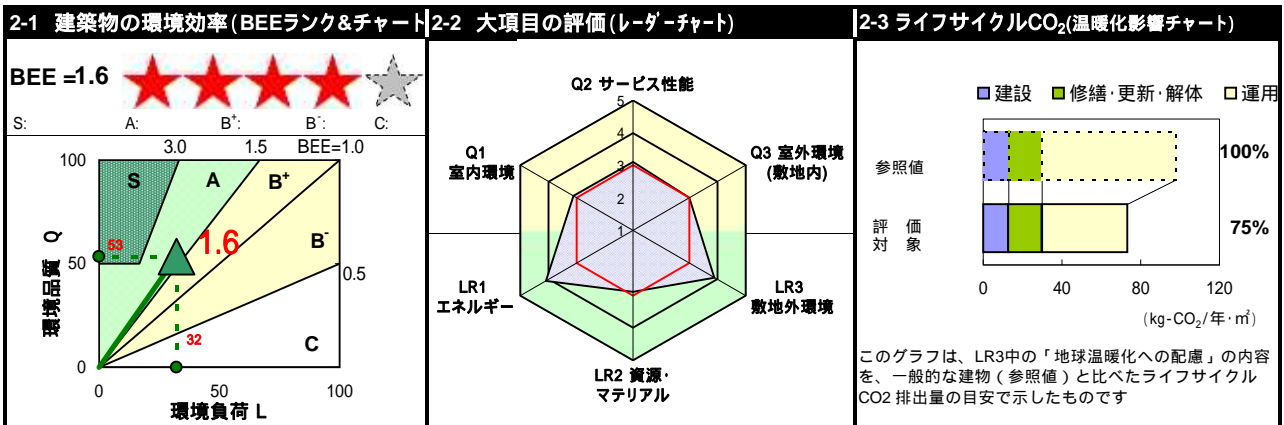


# CASBEE<sup>®</sup> 新築[簡易版]

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb\_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本大学藤沢中学校	階数	地上5F
建設地	藤沢市亀井野字屋中向1866-20他	構造	RC造
用途地域	市街化調整地域	平均居住人員	505 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	2,700 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年6月 予定	評価の実施日	2011年2月22日
敷地面積	87,882 m <sup>2</sup>	作成者	(株)イクス・アーク都市設計
建築面積	1,860 m <sup>2</sup>	確認日	2011年2月22日
延床面積	5,493 m <sup>2</sup>	確認者	(株)イクス・アーク都市設計



3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 生徒及び教職員の方々に快適な空間を提供するとともに、環境にも十分配慮することを基本方針とする。省エネルギーについては高効率機器を採用し全熱交換器による空調外気負荷、CO <sub>2</sub> 制御による空調外気負荷、自然風の取入れによる空調負荷の低減を図った。環境への配慮についてはオゾン破壊係数ゼロの新冷媒の採用し、省資源化(節水器具の採用等)保守性の向上、メンテナンスの利便性を考慮した機器を採用する		0
<b>Q1 室内環境</b> ・開口部サッシに遮音等級T-2、教室界壁には遮音性能TLD-56を使用する。窓廻りにカーテンボックスを配置さらにアルミド-底により昼光・グレアを制御する中央ボイドや5層吹き抜けを採用し、自然換気、自然採光を図っている	<b>Q2 サービス性能</b> ・基準階の階高は4.13mを確保、壁長さ比率は0.106 ・外壁には、耐用年数の高いタイルを採用。 ・内装材は、フローリング、塗装、クロス、化粧石膏ボードなど更新必要間隔の長い材料を選定。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 主な空調熱源等の廃熱は屋上より廃熱を行う予定
<b>LR1 エネルギー</b> ・窓廻りにカーテンボックス、日射遮蔽板により日射遮断、及び適切な断熱により建物熱負荷の抑制 ・ハイサイドライト、中央ボイドや5層吹き抜けを採用し、自然換気、自然採光を図っている。 ・氷蓄熱ヒートポンプエアコンの採用	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型器具(自動水栓等)を採用し節水対策を計画 ・エアコンの冷媒は新冷媒仕様	<b>LR3 敷地外環境</b> ・オール電化とし燃焼機器無し ・省エネルギー設備を導入、氷蓄熱によるピークシフトを計画 ・隣地から十分ゆとりを持った建物配置計画をし周辺環境に配慮

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい